

## 野外体験教育プロジェクト報告

大河原 清\*  
(2007 年 2 月 6 日受理)

OOKAWARA Kiyoshi

A Report on an Outdoor Experiential Education Program

### 1 実施内容

日時：2006 年 7 月 8 日（土）7：30 から 18：50。

場所：姫神山一本杉コース。

天候：曇り、頂上付近では一部青空も見えたが昼食後に霧が発生して早々と下山を開始した。

参加者：小学生 16 名（盛岡市立上田小学校 1 名、厨川小学校 8 名、岩手大学教育学部附属小学校 7 名）、保護者 7 名、学生 7 名、院生 8 名、教員 1 名 計 39 名。

日程計画：登山に当たっては、自己紹介アクティビティや姫神山秘密アクティビティと称するもとでの姫神山関連の説明を実施すること、今回は特に登山後に登山新聞の作成を行うことを計画した。姫神山秘密アクティビティの実施では、学部生に姫神山についての伝説や山の成り立ちについて、また生息する鳥や、雲の種類について頂上にて説明する予定であったが、霧が発生したために頂上での実施を取り止め、好摩公民館での登山新聞作りの開始時に説明してもらった。

日程：当日の実施状況は次の通りだった。

7：30 院生・大学生のサポーターが岩手大学第二体育館前集合。

7：50 受付開始。

8：10 バスは岩手大学出発。

9：10 姫神山登山口の一本杉キャンプ場到着。自己紹介アクティビティは皆恥じを捨てて声を出していた。グループ会議、トイレと休憩をとり、準備体操。

9：45 登山開始。

10：30 五号目付近。

11：40 頂上到着。休憩・昼食。

12：30 写真撮影。

13：00 下山開始。

15：00 登山口到着。

15：15 登山口出発。

15：30 好摩公民館到着。アンケート実施。振り返りシート。

16：00 姫神山秘密アクティビティを実施。グループ会議。

16：30 登山新聞作り。

18：00 好摩公民館出発。帰りは女の子たちがおおはしゃぎして眠れなかった。

18：50 岩手大学到着。解散。

### 2 実施報告

以下は、3つのグループの報告をもとに紹介する。

グループ名「自然を楽しむ隊」（6名）の目標は自然をおもいきり楽しもうであった。大学生

\*岩手大学教育学部

のかおりさんとかなえさんが登山初体験、小学生のまいさん、りいなさん、まりかさんは以前に実施した姫神山登山に参加していた。かおりさんは登山をして「登山はいままでしたことが無かったし、別にしたいとも思ってなかったけれど、今回登山に参加してすごく良かったと思いました。普段体験できないこと、見ることでできないものを登山で達成できました。疲れたけれど、それ以上に得たものが大きかったと思います」と報告していました。

新聞作りに入る前に、かなえさんは「みんな雲博士になろう!!」ということで、巻雲、層雲、積雲といった雲の種類について説明しました。

E グループの目標は、てっぺんまでがんばろうでした。MさんとSさんの2組の親子が参加してくれました。Nさんは伝説博士として、岩手山、姫神山、早池峰山の三山伝説を紙芝居で発表してくれました。「早池峰山は男の山で、姫神山を巡って岩手山と決闘した」という情報をインターネットで調べたそうです。小学生との触れ合いでは、院生の方の言動に見習うものがあったという。それは、前のグループを追い越していた児童に対して、追い越しちゃだめだよ、と言うのではなく、「そこはどんなところですか？ 行ってもいいところですか？ 自分で考えましょう」と自主性を尊重した注意をしていたという。

グループ名「頂上姫神団」（小学生4名、保護者1名を含む大学生2名、院生1名計8名）のえりさんの感想には「登山を終えて、心から参加して良かったと思います。正直、日頃運動もしていない私が小学生を引っ張って登山なんかできるのだろうか、初めて顔を合わせる小学生と仲良くなれるのだろうか、みんなの前でうまく発表できるのだろうか、など不安だらけでした。…登山自体は本当に辛く大変でしたが、励ましあい一緒に頑張ることで更にお互いの距離が縮まるのだと思います。あれほど辛い思いをして頂上に着いたからこそ味わえる達成感やすばらしい眺めに感動し、今までの疲れが吹っ飛ばすような気持ちよさをみんなで共有できて、このとき頂上まで諦めずに登っ

てこられて本当に良かった、参加して本当に良かったと思いました」とありました。

### 3 登山に当たってサポーター役となる大学生の教育活動のための各種アクティビティの導入

野外体験教育は、参加者である児童・生徒が体験活動を通して何かを得るばかりではなく、児童・生徒をサポートする大学生にとっても貴重な指導場面を提供している。このため何らかの仕掛けを組み込むことが大切となる。その仕掛けの一つが自己紹介アクティビティであり、姫神山秘密アクティビティの導入である。

#### 3-1 自己紹介アクティビティ

自己紹介アクティビティは、初めて出会う参加者同士の交流を促進するものである。相手の体温やぬくもりを肌で感じながら、相手のことを知るのが目的である。教員の方で準備したものは、次のものである。

**自己紹介アクティビティ**（登山時における社会的人間関係作り）

目的：仲間の名前を覚える。名前の反復回数をできるだけ多くする。

実施方法

- a 全員で輪を作る
- b 手を組む（順手またはからだの前で手を交差させる）
- c 上述の実施目的と以下の方法とを説明する
- d 大きな声で以下の通り発言する  
「おはようございます」  
「〇〇と申します（自分の名前をつげる）」  
「本日は怪我をしないように登ります」（自分の登山に当たっての目標などを表現する）  
「また、友達をたくさんつくりたいです」（相手とはどのような関係になりたいかなど）  
「どうぞ、よろしくお願いいたします」
- e 全員で

「フレーフレー ○○」、「フレーフレー ○○」

f ○○発言「○○から□□へ」(次に発言してもらいたい□□さんに順番を振る)、「○○から□□へ」

g 全員で「○○から□□へ」、「○○から□□へ」

(以下□□さんは、d から g を反復する)

登山で導入した振り返りシートの効用を含めて、自己紹介アクティビティについて述べている NH さんの感想を紹介する。「これからいろんな場面で使えると感じたのは、自己紹介アクティビティや、振り返りシートです。自己紹介アクティビティは、初対面の人でも、手をつないで親近感を感じることができるし、何度も相手の名前を呼ぶことで覚えることも可能です。また振り返りシートについては、ある活動をして、その日のうちに自分を振り返り、今後の活動に役立てるというもので、とても大事な作業です。レーダーチャートを作らせることで一層興味も増したのでは思います。これらを、教師になったときに生かしたいです」

### 3-2 姫神山秘密アクティビティの考察

次に姫神山秘密アクティビティについてである。姫神山について調べたことを児童・生徒に説明する点では、内容には真新しさは無いが、教育実習前の大学1・2年生が初めて小学生に説明することの難しさを味わえるという点で意義があるだろう。この1・2年生の段階では説明は下手でも、教師になってから説明が上手になってもらえれば良いのである。

姫神山に棲息すると思われる鳥(キジ、カッコー、アカゲラ、クマゲラ、ホシガラス)について説明した SE さんの感想を紹介しよう。「自分で反省することもたくさんありますが、このことを繰り返さないように次につながるようにしたいです。個人的なことと言うと、まず姫神山の秘密についての発表についてです。私は人前で話すのが

苦手のせいもありますが、子供たちが私の話(発表)を全く聞いてくれなかったことです。資料については小学生が見てもわかるように難しい言葉は使わず、文章も短く、手書きの鳥の絵も入れて…といろいろなところで工夫しましたが、発表となるとまだまだ準備不足だったなあと反省しました。子供たちの興味関心を惹きつけるような話し方や、手元の資料を見てもらうのではなく、大きな紙に鳥の写真を貼り付けたのを見せて、こちらに注目するようにするなど、もっと工夫しなければいけないと思いました」と。

### 3-3 興味を引く説明のポイント

説明においてアドバイスを一つするとすれば、説明のために取り上げる内容を、いかに私達人間の生活に関わらせることができるか、とりわけ私達人間の嬉しいことや悲しかったことの感情に訴えられるかの視点を説明時に組み込むことにありそうである(これは相手を思い遣る共感的理解にかかわろう)。

今回前述の通り学生 N さんが姫神山秘密アクティビティで取り上げている岩手山、姫神山、早池峰山の三山伝説が興味を引いたのは、紙芝居による発表ばかりではなく、岩手山を男と見立て、姫神山と早池峰山を女と見立てた三角関係といった男女の関係にも似た感情面が内容としてすでに入っているからであろう。三山伝説が既に内容的に人間の感情面に関わっている点で、見るものの注意を引き付けているものと思われる。

対象についての物理的説明よりも、人間的要素を組み入れた説明の方が、見るものや聞くものの注意を引くのではないだろうか。ある事件についての演劇は、人間の感情に訴える力を持っている。演劇や映画やドラマが注目される所以であろう。

原爆ドームを見学して原爆の威力の凄まじさを物理的に説明されるよりも、女優吉永小百合さんによる音声テープによる説明を耳にする時、自然に涙が込み上げて来るのは、同じように人間の感情に訴える力のあることを示している。原爆の熱

によってアルマイトの弁当箱が中味の御飯とおかずとともに穴が空いて真っ黒こげになった場面の説明で、女優吉永小百合さんが「お母さんが朝、〇〇ちゃんのために一生懸命にこしらえた御飯と〇〇ちゃんの大好きだった卵焼きとを、お弁当箱にいっぱい詰めて送りだしましたが、〇〇ちゃんはその後も食べることができなかったのです…」の説明は、同じ子供を育てている親には、自然に涙を誘うものがあるのである。